

**心へのケアといやし：スピリチュアリティとは
実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究
所News 2015年度 聖学院大学総合研究所 カウンセ
リング研究センター主催：スピリチュアルケア研
究講演会）**

| | |
|-----|---|
| 著者 | 聖学院大学 総合研究所 |
| 雑誌名 | 聖学院大学総合研究所Newsletter |
| 巻 | Vol.25 |
| 号 | No.1 |
| ページ | 58-61 |
| 発行年 | 2015-09 |
| URL | http://id.nii.ac.jp/1477/00002827/ |

| | |
|------------------|---|
| Title | 心へのケアといやし：スピリチュアルケアとは実施結果：アンケート集計結果の概要（総合研究所 News 2015 年度 聖学院大学総合研究所 カウンセリング研究センター主催：スピリチュアルケア研究講演会） |
| Author(s) | 聖学院大学総合研究所 |
| Citation | 聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.25No.1, 2015.9 :58-61 |
| URL | http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/rep/modules/xoonips/detail.php?item_id=5424 |
| Rights | |



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

総合研究所 News

2015年度 聖学院大学総合研究所 カウンセリング研究センター主催 スピリチュアルケア研究講演会 心へのケアといやし ～スピリチュアリティとは～ 実施結果-アンケート集計結果の概要

日本の死の研究の先駆者であり、多くの貢献をしてこられたアルフォンス・デーケン先生をお迎えします。デーケン先生は上智大学で教鞭を執りながら、大学の枠を越えて死の臨床の場に立ち、病に苦しむひとに慰めを語ってこられました。今なお、日本全国を飛び回り、病室を訪問し、講演をし、著作活動をされています。

今回、病をもつ人の心へのケアと癒しについて、スピリチュアルケアの視点からお話ぐさいます。

日時：2015年4月24日（金）

14：00～16：30（開場13：30）

場所：聖学院大学 ヴェリタス館教授会室

【プログラム】

開会挨拶

阿久戸光晴（学校法人聖学院理事長・院長）

講演「心へのケアといやし～スピリチュアリティとは～

アルフォンス・デーケン（上智大学名誉教授）

質疑応答

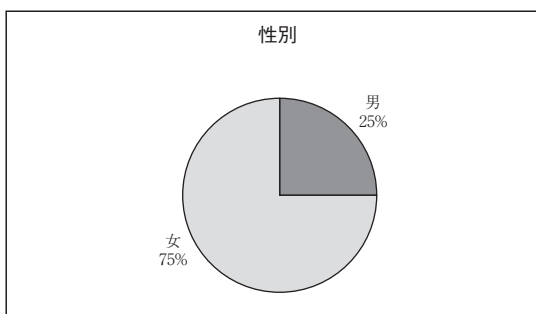
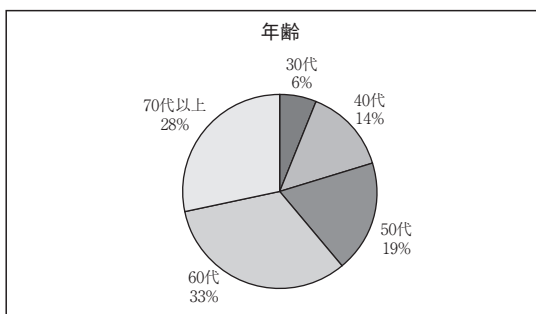
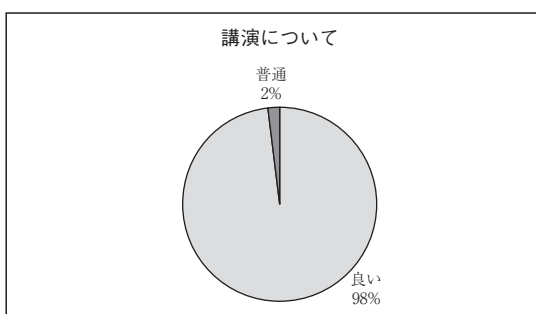
司会

窪寺 俊之（聖学院大学大学院教授・聖学院大学人間福祉学部子ども心理学科長）

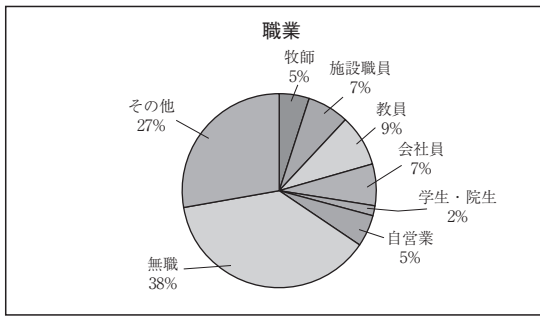
閉会

【結果の概要】

- ・参加者は116名。内、アンケート回答者は64名。
- ・回答者のプロフィールとして、年齢は「60代」が最も多く33%。
性別は、女性が75%だった。
- ・講演について、「良い」が98%と大変高い評価を得た。
- ・自由意見では、「楽しい講演だった」「希望をもって生きていきたい」「ユーモアにあふれていた」など。

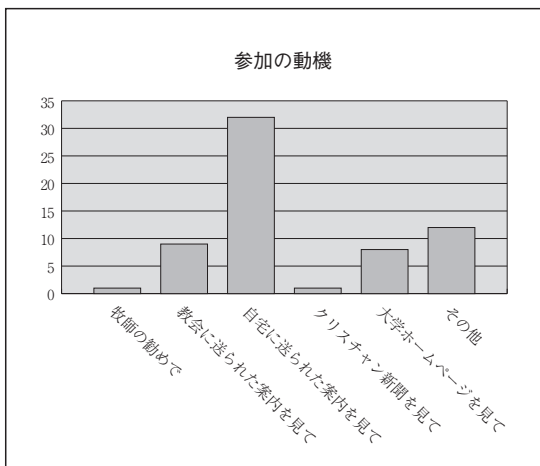


*回答者の年齢は、60代が最も多く33%、次に70代以上28%、50代19%となった。
性別は、女性が75%だった。



＊職業別では、「教員」が9%、「施設職員」「会社員」が共に7%だった。

「その他」の内容は、「看護師」「チャプレン」「牧師夫人」「病院職員」「医者」「ヘルパー」など。



＊参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多かった。

「その他」の内容は、「病院に送られた案内を見て」「大学関係者のface bookで」「友人に勧められて」など。

4. 今後、聞いてみたい講演会やご希望

- ・スピリチュアルケアの講演会を希望します。
- ・祈りについて。
- ・窪寺先生の「スピリチュアリティと、」の観念のお話をお聴きしたいと思う。
- ・異文化交流・地域共生など。
- ・キリスト教関係のものと全く違う演目についても、この大学に足を運びたいと思う。
- ・もう一度、元学長の話を知りたい。佐藤まさこさん。
- ・「デーケン先生の本を読む会」があれば。
- ・阿久戸光晴先生の講演をお聞きしたいです。

- ・終末期の心のケアについて、もっともっと知りたいです。現状はどうなっているのか、どうして逝かなければならないのか？それには何が必要なのか？気軽に学べる場所があれば、参加して学びたい。
- ・デーケンさんの講演会がございましたら出席させていただきたい。
- ・心に病をかかえている人々へのケア、又は家族へのケアについて。
- ・死についての哲学に興味を持ちました。これからまた、死についての哲学の講演会をききたい。
- ・New Age MovementとSpritualityの相違について。人の総合的な癒しについて。
- ・依存症、共依存症、などについて。
- ・秦恒平VS佐藤優あるいは晴佐久昌英、窪寺俊之（敬称略）。

5. 自由意見

- ・デーケン先生にお会いできて、本当に幸せな日を頂きました。生きる元気、勇気を頂きました。『あなたの人生を愛するノート』で娘たちに“心”を残したいと思います。先生のお陰様で、大切な想いを再確認しました。私の主人は、13年前に突然のすい臓がんで入院して21日で亡くしました。3人娘も成人して税金を払う大人に成長しました。先生のお話を伺って、亡くなった主人はユーモアの人でした。だから私たちは愛にあふれて今も生きています。
- ・数年前にも先生のお話を伺いましたが、いつも人に安心を与えるお話に感銘をうけております。わたしは現在、チャプレンの職を離れていますが、再びお話を伺うことができて感謝です。
- ・看護学校でデーケン先生について学び、いつかきっと一度はお話を聞きたいと願ってきたことが実現できて感謝です。この時を与えてくださった神様と職場と患者さまに感謝いたします。今後の大きなかたとして生きてゆけます。6月13日のユーモアに行ってみたいと思う。
- ・もっと難しいお話だと思っていましたが、ユーモアにあふれたとしてもわかりやすいお話で元気ができました。ありがとうございました。
- ・ユーモアは相手の心を楽しませたり、はずませ

るので「愛」が自分にあるかないかの計りですね。

- ・この講演会シリーズで、会場の方々と一体感を共有できたのは初めてでした。デーケン先生のお人柄なのでしょうか。ありがとうございました。
- ・デーケン先生のお話、楽しかったです。日本人としてまだまだユーモアの学びが欠けているなと思いました。
- ・学生時代、雑誌でデーケン先生のDeath Educationについて読んで以来、「心の中でずっと気になっておりました。お話を聞ける機会をありがとうございました。
- ・昨年の12月中旬に父を亡くし、その父の四十九日を終えて間もない2月18日母が逝去しました。デーケン先生のお話を聴き、父も母も23才で夭折した妹も喜んでいる。そう思いました。続けてきたボランティア活動を今後もがんばります。
- ・私たちが読書会で読んでいる『心を癒す言葉の花束』の著者にお会いできたことは大変な喜びです。私は今後ホスピスで働こうと思っていますが、ユーモアと笑顔で、耳は二つ、口は一つで努めます。
- ・医療者の理解するスピリチュアリティと、いわゆるスピリチュアリティ（宗教的いみあい）の相違からくる、看者さんへのアプローチの不一致がテーマになった学び。例えば、看護師は患者の“死にたい”をスピリチュアルペインというが、その言葉に宗教的な意味は特にないのが、日ごろ宗教心のない患者と宗教心のない医療スタッフからの様々なアプローチをみています。いわゆる宗教を持つスタッフは、宗教心のない患者に無理やり宗教的アプローチはかけないものですが、患者からの重たい発言をすべて宗教的痛みと無理やりくくっているような…。
- ・初めてデーケン先生の講演を聞かせていただきました。笑いにあふれ、楽しかったです。日本人は少し真面目すぎる人が多いのかなとも思いました。昭和7年は私の父と同じ年です。父は昨年他界しましたが、デーケン先生はとてもお元気そうで。これからも健康で講演会など続けてください。
- ・先生のあたたかい愛と思いやり、同時に深い哲

学性を感じることができ、このような機会を与えられて感謝です。

- ・今回初めてこの研究講演会に参加しましたが、デーケン先生のまさにユーモアに富んだお話を、時のたつのも忘れて聞かせていただき、感謝です。これからも機会があれば出たいと思います。
- ・楽しく、景色が変わりました。本を読むだけでは伝わらないこと、デーケン先生の人となり、思いやりがよくわかりました。
- ・わかりやすく、おもしろく、深いお話でした。もっと長く、たくさんのお話を聞きたらうれしいのにと、終わるのが残念でした。本を読ませていただきたいと思います。
- ・不条理の世の中で、不条理を受け入れ意味を見出すのにユーモア感覚とゆるしと和解と思いぬくもりを感じました。
- ・今日のデーケン先生の講演、楽しく意義深く拝聴致しました。笑うことと自分が危機的状況に陥ってもユーモア感覚を失わないように、愛と思いやりを持ちたいと思います。
今、死を前にして危機的状況にある人と、どのようにして笑いあえるかは、私にとって大きな課題です。
- ・とても笑いと愛に満ちた講演をありがとうございました。いつまでもお元気で過ごしてくださいませ。
- ・自分の最後の子どもへの教育として、「自分の死」をユーモアで終わりたい。死期がせまっているときに、それ程の余裕があるかどうか。
- ・デーケン先生の著書を読んでおり、お話も聴いてみた参加させていただきました。ありがとうございました。
- ・ユーモアは思いやりと愛の表現であるというメッセージが印象的で、まさに先生の愛と思いやりの恵みにあふれたご講演、ありがとうございました。ユーモアによって笑いが育まれ、今日の来場者・講演者の一体感を実感でき、もしかすると孤独感を抱いていた方や、不安を抱えておられた方にとっても、癒しの時間を分かちあえたと思います。
- ・1993年のNHK人間大学ではじめて先生のお話を聴きました。本日、デーケン先生のお声、お顔

- を生で触れられ、本当に感謝です。お顔を見て
るだけで柔らかい気持ちになることが出来ました。
何て可愛らしい(失礼!)お顔でしょう!ユー
モアのなせる業!!ユーモアな人生のゆとり。
- ・ユーモアについての話、とても興味があつたが、
ユーモアを持っていない者がより良いスピリ
チュアルケアを求めていくにはどうしたら良い
かと思わされてしまう。
 - ・神様のユーモアに生きたいと思った。そして頂
いたタラントを用いて頂く喜びで、家族ともう
一度出会いたいと考えました。
 - ・以前、うつ病になり、死への対応に興味があり
ます。私はクリスチャンです。娘がおりますが、
聖学院のスピリットを伝えていただけたらうれ
しく思います。デーケンさんは私のあこがれの
方でしたので、招いていただき、ありがとうご
ざいました。
 - ・素晴らしい講演でした。キリスト教という言葉
を使わずに説明するところに、感動しました。
特にスピリチュアリティの10の基本的人間の特
性はよく分かりました。笑顔とユーモア!!そ
うですね!
 - ・アルフォンス・デーケン先生ともう一つ、死に
ついでの前向きな考え方、生き方に興味が生
えました。ありがとうございました。
 - ・ユーモアというセンスは日本ではあまり身近で
ないような気がします、とても大切に、余裕
がないとできないことだと思いました。
 - ・「人は無力になってもできることがある…」感動
しました。大変素晴らしいお話でした。本当に
人間らしい人間とは…。日々、素直に思いやり
をもって生きていくこと。その積み重ねなのだ
と実感しました。幸せに生きることは自分自身
がよりよく生きることだとも再認識しました。
一度きりの人生、希望を持って生きていきます。
ありがとうございました。
 - ・今日は久しぶりに心から笑ったような気がしま
す。周りの多くの人たちの笑いに誘われて笑っ
たり、笑いの大切さを体感しました。変わりた
いのです。家族や友人に伝えていきたいです。
ダンケシェーン!
 - ・地域に住む者としてこのような講演会を催して

- いただき、感謝します。スピリチュアリティに
もユーモアが必要とのお話に参考になり、勇気
づけられました。高齢者ですが、何事にもユー
モアをもって接し、死を間近にした方々へも優
しく、ユーモアのある気持ちで支えていきたい
と思います。
- ・「金メダルじゃなくても、銀メダルじゃなくても
どうでもいいです」のフレーズ、今度どこかで
使わせてください。
 - ・死とユーモアの意味を考えさせられました。す
ばらしい講演でした。
 - ・とても楽しく有意義な講演会を誠にありがと
うございました。
 - ・本当によかったです!ありがとうございました!
 - ・身近な存在でうれしい。ユーモアについて深く
考える。
 - ・会場の案内係を門のところに一人いてほしいと
思いました。
 - ・本日のご講演、大変良かったです。
 - ・スピリチュアルについて興味をもちました。
 - ・楽しい内容で元気と癒しをいただきました。
 - ・有意義な機会をありがとうございました。
 - ・ありがとうございました。